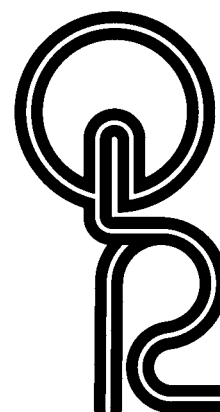


QR Newsletter



第四紀通信

Vol. 18 No.1, 2011



ドイツ・ケルン西方にある Hambach 鉱山における鮮新・更新世境界付近の地層。ボン以北のライン川下流域には、漸新世から第四紀にかけて、ほぼ連続的に堆積した地層が分布し、植物化石が多産する。後期鮮新世の約 3.5 ~ 2.6Ma に堆積した粘土層と砂層の互層からなる Reuver 層が、露頭の 3/4 の位置で砂礫からなる更新統に覆われている。(百原 新 撮影)

Vol. 18 No. 1

February 1, 2011

2011 年大会案内 (第 1 報) 2	会員消息 6
JpGU 大会案内 2	ロレックス賞募集のお知らせ 6
シンポジウム報告 5	研究集会案内 7

◆日本第四紀学会 2011 年大会案内 (第 1 報)

日本第四紀学会 2011 年大会は、下記の日程で実施される予定です。
詳細や発表の申込方法などにつきましては、次号の第四紀通信に掲載いたします。

開催期間：2011 年 8 月 26 日 (金) ～ 8 月 28 日 (日)

開催場所：鳴門教育大学

日 程：

- 8 月 26 日 (金) 一般研究発表 (口頭およびポスター)・評議員会
- 8 月 27 日 (土) 一般研究発表 (口頭およびポスター)・総会・懇親会
- 8 月 28 日 (日) 午前：シンポジウム (「環太平洋の環境文明史」を中心とするテーマを検討中)、午後：講演会 (学会賞・学術賞受賞者)
- 8 月 29 日 (月) アウトリーチ巡検「百万年前の東四国を探る」(日帰り)

シンポジウムでは「環太平洋の環境文明史」を中心とするテーマで検討中です。

巡検は、初等・中等教育の関係者 (教員、生徒、保護者) 等、学会員以外の参加者を募り、徳島県に分布する土柱層と中央構造線、香川県に分布する三豊層群の見学を予定しています。(定員の上限は、会員 30 名、非会員 30 名)

また、学会賞・学術賞受賞者の講演を大会時に行う予定です。

◆日本地球惑星科学連合 2011 年大会のお知らせ

日本地球惑星科学連合 2011 年大会が下記のとおり開催されます。日本第四紀学会は、「第四紀」セッションを引継ぐ新しいセッションとして『ヒト-環境系の時系列ダイナミクス』を 2010 年に引き続き主催します。また『活断層と古地震』セッションを従来通り主導します。これら 2 つのセッションとその関連セッションに会員多数の参加と発表を期待します。以下は地球惑星科学連合の大会ホームページ (<http://www.jpгу.org/meeting/index.htm>) より編集したものです。なお、日本地球惑星科学連合は一般社団法人化され、個人会員制になりましたが、会員であっても非会員でも大会に参加できます。ただし参加費が異なりますのでご注意ください。会員登録は日本地球惑星科学連合のホームページ (<http://www.jpгу.org/>) をご覧下さい。

§ 1 2011 年大会の概要

●会期：2011 年 5 月 22 日 (日) ～ 27 日 (金)
(6 日間)

●会場：幕張メッセ国際会議場
〒261-0023 千葉市美浜区中瀬 2-1

●各種受付開始日・締切日

■予稿集原稿投稿

2011/1/11 (火) より受付開始

～早期締切 1/31 (月) 17:00

～最終締切 2/4 (金) 12:00

※投稿規定の詳細は大会予稿集原稿投稿案内 (<http://www.jpгу.org/meeting/abstract.html>) をご覧ください。

■早期参加登録

2011/1/11 (火) ～ 5/9 (月)

●各種料金：

予稿集原稿投稿

早期：1,500 円 / 1 件、最終：3,000 円 / 1 件

図の掲載 (WEB アップロード)：500 円 / 1 件 (希望者)

参加費 (全日程料金 / 24 時間料金)

事前参加登録：

一般会員 11,000 円 / 6,000 円 (同 大会会員 18,000 円 / 12,000 円)

小中高教員 会員 5,000 円 / 3,000 円 (同 大会会員 11,500 円 / 8,000 円)

大学院生・研究生 会員 5,000 円 / 3,000 円 (同 大会会員 11,500 円 / 8,000 円)

当日参加登録：

一般 会員 13,000 円 / 7,000 円 (同 大会会員・非会員 20,000 円 / 13,000 円)

小中高教員 会員 7,000 円 / 4,000 円 (同 大会会員・非会員 13,000 円 / 10,000 円)

大学院生・研究生 会員 7,000 円 / 4,000 円 (同 大会会員・非会員 13,000 円 / 10,000 円)

連合個人会員でなくても大会に参加できますが、会員と大会会員・非会員とでは参加登録料が異なります。各料金の支払いはオンラインシステムによるクレジットカードでの支払いとなります。詳細は大会ホームページをご覧ください。

§ 2 開催セッションのご案内

セッションはパブリック(O)・ユニオン(U)・学術(サイエンス)の大きく3つに分かれます。さらに、学術セッションは、宇宙惑星科学(P)、大気海洋・環境科学(A)、地球人間圏科学(H)、固体地球科学(S)、地球生命科学(B)、教育・アウトリーチ(G)、領域外・複数領域(M)の7つのセッション群に分かれます。ご投稿・ご参加の際には、興味のあるセッションを上記の計9つのセッション群の中から検討してください。

第四紀学セッション(H-QR)では『ヒトー環境系の時系列ダイナミクス』と『平野地質ー第四紀層序と地質構造ー』の2つのセッションが開催されます。また、『活断層と古地震』『ジオパーク』『人間環境と災害リスク』『活断層と地震災害軽減』『古気候・古海洋変動』『海と陸の気候ー過去から現代までの変動解明へのアプローチ』『氷床・氷河コアと古環境変動』『Climate change in the low latitude and proxy development』などホットな話題を含む第四紀学関連セッションが多数開催されます。ふるってご参加ください。

●開催セッション一覧

■ユニオン (U)

- ・ System of Water, Atmosphere and Human in Coastal Megacities
- ・ New perspective of great earthquakes along subduction zones
- ・ New results from Venus Climate Orbiter AKATSUKI
- ・ Global Data System for Earth and Planetary Sciences
- ・ New planetary science arising from "HAYABUSA" recovery sample
- ・ 生命ー水ー鉱物ー大気相互作用
- ・ 地震
- ・ 火山噴火の科学的予測と防災情報の現状と課題
- ・ 都市における極端気象
- ・ 地球惑星科学の大型研究計画と夢ロードマップ

■パブリック (O)

- ・ 高校生によるポスター発表
- ・ 地球／惑星科学トップセミナー
- ・ ジオパーク
- ・ 日本ジオパーク委員会公開審査

■宇宙惑星科学 (P)

P-PS (惑星科学)

- ・ Future explorations of Jupiter and Saturn system
- ・ Mars
- ・ Asteroidal collision from meteorites and experimental works
- ・ Material Circulation in the early solar system
- ・ 宇宙／惑星における固体物質の形成と進化
- ・ 月の科学と探査
- ・ 惑星科学
- ・ 太陽系小天体の科学
- ・ 来る10年の月惑星探査に向けた構想と戦略
- ・ 隕石解剖学

P-EM (太陽地球系科学・宇宙電磁気学・宇宙環境)

- ・ Space weather
- ・ CAWSES-II / ISWI

International Symposium

- ・ Current progress in inner magnetospheric physics

- ・ 宇宙天気
- ・ 磁気圏ー電離圏結合
- ・ 太陽圏／惑星間空間
- ・ 磁気圏構造とダイナミクス
- ・ 大気圏／電離圏
- ・ 宇宙プラズマ理論／シミュレーション
- ・ 太陽高エネルギー粒子被ばく予測モデルの研究開発

P-CG (宇宙惑星科学複合領域・一般)

- ・ Instrumentation for space science
- ・ 惑星大気圏／電磁圏

■大気海洋・環境科学 (A)

A-AS (大気科学・気象学・大気環境)

- ・ Application of GNSS for atmosphere and ionosphere studies
- ・ 大気化学
- ・ 最新の大気科学：大気／海洋／地球環境における乱流の数値解析
- ・ 成層圏過程とその気候への影響

A-EM (エアロノミー・大気電磁気学・大気電気学)

- ・ atmospheric electricity and their application to meteorology

A-HW (水文・陸水・地下水学・水環境)

- ・ 同位体水文学 2011
- ・ 都市域の地下水／環境地質
- ・ 水循環／水環境
- ・ 流域の水文地質と物質循環
- ・ 陸上生態系の水／物質循環を通じた環境維持作用

A-CC (雪氷学・寒冷環境)

- ・ 雪氷学
- ・ 氷床／氷河コアと古環境変動
- ・ 雪氷圏と気候

A-PE (古環境・長期気候変動)

- ・ 古気候／古海洋変動

A-GE (地質環境・土壌環境)

- ・ Subsurface Mass Transport and Environmental Assessment

A-CG (大気海洋・環境科学複合領域・一般)

- ・ Continental-Oceanic Mutual Interaction, Global-scale Material
- ・ 北極域の科学
- ・ 海と陸の気候ー過去から現代までの変動解明へのアプローチ
- ・ 陸域／海洋相互作用ー物質循環と生態系との関係ー
- ・ 地球環境関連データセット展覧会

■地球人間圏科学 (H)

H-GG (地理学)

- ・ Global Land Project

H-GM (地形学)

- ・ Geomorphology
- ・ 地形

H-QR (第四紀学)

- ・ ヒトー環境系の時系列ダイナミクス
- ・ 平野地質ー第四紀層序と地質構造

H-SC (社会地球科学・社会都市システム)

- ・ International Human Dimensions Programme
- ・ 人間環境と災害リスク

H-DS (防災地球科学)

- ・ Multi-disciplinary Studies on Natural

Hazard in Asia ・活断層と地震災害軽減
 ・湿潤変動帯の地質災害 ・ヒマラヤにおける氷河湖拡大と決壊洪水 ・津波とその即時予測 ・地震動予測地図：関連する研究成果の融合と今後 ・緊急地震速報と今後の発展：地象予測監視に向けて

H-RE (応用地質学・資源エネルギー利用)
 ・地球温暖化防止と地学 (CO₂ 固定、CCS、ジオエンジニアリング等) ・自然資源の利用と管理

H-TT (計測技術・研究手法)
 ・GIS ・Environmental Remote Sensing : Growth and Changes in Asia ・地理情報システム ・環境リモートセンシングーアジアの発展と環境変化ー

H-CG (地球人間圏科学複合領域・一般)
 ・惑星と閉鎖生態系における生物のシステムー微生物からヒトまで ・堆積物/堆積岩から読みとる地球表層環境情報

■固体地球科学 (S)

S-GD (測地学)

・測地学一般 ・重力/ジオイド

S-SS (地震学)

・地震発生の物理/震源過程 ・地震予知
 ・地震活動 ・地殻変動 ・地殻構造 ・強震動/地震災害 ・活断層と古地震 ・地震波伝播：理論と応用 ・断層帯のレオロジーと地震の発生過程 ・内陸地震への包括的アプローチ ・関東アスペリティ/プロジェクト：掘削とモニタリングに向けて ・首都直下地震防災/減災特別プロジェクト ・海溝型巨大地震の新しい描像

S-EM (固体地球電磁気学)

・電気伝導度/地殻活動電磁気学 ・地磁気/古地磁気/岩石磁気 ・Magnetic imaging and modeling: Planetary- to nano-scale

S-IT (地球内部科学・地球惑星テクトニクス)

・Oceanic Lithosphere/Asthenosphere - Evolution and Dynamics ? ・Structure, Dynamics & Composition of Earth & Planetary Cores ・Mineral physics and dynamics of deep mantle ・テクトニクス
 ・地球深部ダイナミクス：プレート/マントル/核の相互作用 ・地球構成物質のレオロジーと物質移動

S-GL (地質学)

・地球年代学/年代層序学 ・地域地質と構造発達史

S-RD (資源・鉱床・資源探査)

・資源地質学の新展開：レアメタル/レアアース資源を中心として

S-MP (岩石学・鉱物学)

・Minerals, Rocks, Mountains: Linking Petrology & Geochemistry ・Mineralogical

and microanalytical constraints on magmatism ・変形岩/変成岩とテクトニクス ・鉱物の物理化学 ・水素系物質と中性子の地球惑星科学

S-VC (火山学)

・Large Igneous Provinces in the Pacific Realm ・火山噴火のダイナミクスと素過程
 ・火山の熱水系 ・火山/火成活動とその長期予測 ・活動的火山 ・火山とテクトニクス ・久野久生誕 100 年：岩石学 ・火山学のその後の進展

S-GC (固体地球化学)

・固体地球化学/惑星化学

S-TT (計測技術・研究手法)

・物理探査のフロンティア ・合成開口レーダー ・地震観測/処理システム ・空中からの地球計測とモニタリング

S-CG (固体地球科学複合領域・一般)

・Tectonic setting and formation of Asian continent ・Glass and Melts: from lava up to industrial process ・Near surface geophysics ・Seismo- Electromagnetics
 ・スロー地震 ・岩石/鉱物/資源 ・断層帯の化学 ・放射性廃棄物処分と地球科学
 ・地震/火山等の地殻変動に伴う地圏/大気圏/電離圏電磁現象 ・海洋底地球科学
 ・プレート収束帯における地殻変形運動の統合的理解 ・ひずみ集中帯の構造とアクティブテクトニクス ・島弧進化と大陸地殻
 ・流体包有物 ・堆積/侵食/地形発達ダイナミクスへの学際アプローチ ・冥王代から現在に至る大陸地殻の形成、沈み込み、そして真の成長

■地球生命科学 (B)

B-AO (宇宙生物学・生命起源)

・Astrobiology: Origins, Evolution, Distribution of Life

B-BG (地球生命科学・地圏生物圏相互作用)

・光エネルギーを巡る生命システムの進化ダイナミクス ・サンゴ礁：生命/地球/人の接点

B-PT (古生物学・古生態学)

・Climate change in the low latitude and proxy development ・地球生命史 ・化学合成生態系の進化をめぐって ・地球史解説：冥王代から現代まで・人類進化と気候変動
 ・ユーラシアにおける新生代の脊椎動物相

B-PO (古海洋学)

・Biocalcification and the geochemistry of proxies

■教育・アウトリーチ (G)

G-EJ (小・中学校教育)

・小中学校の地球惑星科学教育

G-SU (高校・大学教育)

- ・高校大学の地球惑星科学教育

G-SC (社会教育・報道・サイエンスコミュニケーション)

- ・地球惑星科学のアウトリーチ

G-HE (地球惑星科学史)

- ・地球科学の科学史／科学哲学／科学技術社会論

■領域外・複数領域 (M)

M-IS (ジョイント)

- ・Deep Carbon Cycle
- ・Changes in Northern Asia and their feedbacks to the Globe
- ・Current Studies on Submarine Landslides and Related Topics
- ・大気電気学
- ・地球流体力学：地球惑星現象への分野横断的アプローチ
- ・ガスハイドレートとメタン湧水
- ・生物地球化学
- ・地球掘削科学

- ・結晶成長における界面／ナノ現象
- ・「宇宙気候学」と気候現象の新地平

- ・遠洋域の進化
- ・年代測定と地球惑星科学におけるルミネッセンスと ESR
- ・富士山の科学／富士山で科学

M-GI (地球科学一般・情報地球科学)

- ・情報地球惑星科学
- ・逆問題解析の新展開～データからダイナミクスに迫る
- ・地球情報の標準／管理と 3 次元モデル

M-SD (宇宙開発／地球観測)

- ・Earth and planetary sciences using small satellites

M-TT (計測技術・研究手法)

- ・地球惑星科学における地図／空間表現
- ・ソーシャルメディアと地球惑星科学
- ・フィールドワークの未来－異分野融合研究に向けて

◆日本地質学会関東支部－日本第四紀学会ジョイントシンポジウム

「関東盆地の地下地質構造と形成史」参加報告

安藤広一 (首都大学東京大学院 都市環境科学研究科博士課程後期課程)

2010年11月20日から21日にかけて日本大学文理学部キャンパス(東京都世田谷区)にて日本地質学会関東支部－日本第四紀学会ジョイントシンポジウム「関東盆地の地下地質構造と形成史」が開催された。両日あわせて200名以上の参加者がおり、大変に盛況であった。

初日は、開会の挨拶のあと、午前中に3つの講演が開催された。

1つ目は、佐藤比呂志氏らによる関東地方における反射法地震探査についてであり、本州地殻とフィリピン海プレートの境界などが鮮明にとらえられていた。さらに、関東下のフィリピン海プレートの上面が起伏に富んでいることが示された。この様に高精度な地質構造データが得られることで、より精密な関東の地殻変動シミュレーションモデルを作成することができるのではないかと考えられるので、大いに興味を引かれた。2つ目は、平田直氏らによる講演で、今までの東京地震の発生確率が、空間的に一定であるとして計算されていたが、より適切な防災・減災対策のためには、現在明らかになりつつある関東の地下のプレート形状や構造をあきらかにした上で、発生する東京地震を分類し東京地震の発生する場所をより精密に決定する必要があるというものであった。その目的のためには MeSO-net が不可欠であり、その重要性が議論された。

3つ目は中川茂樹氏らによる講演で、Me-

SO-net を用いた地震波トモグラフィーに関するものであり、従来より高精度な地震波速度構造を見ることが出来た。特に、沈み込むフィリピン海プレートの様子を鮮明に見ることが出来た。昼休みをはさんで、関東地域における地下構造に対する反射測線のプロファイルについてのポスターの解説があり活発な議論が行われた。

午後の講演は2件あり、1つ目の橋間昭徳氏ほかによる講演では地殻変動のシミュレーションにより伊豆・小笠原弧の衝突による関東地方の隆起を100万年間にわたって計算したものであり、伊豆・小笠原弧衝突が関東地方の地殻変動にどのような影響を与えたのかが議論された。計算手法が違うものの、同じくシミュレーションによって研究しているので、境界条件やパラメータの設定、計算条件の設定など、非常に勉強になった。2つ目の吉本和生氏ほかによる地震波干渉法の講演では、関東地下の様々な断面における上総層群、三浦層群、地震基盤(先新第三系)の地層境界を明瞭に見ることが出来た。その後は総合対論の予定であったが、昼に行われた反射測線のプロファイルについてのポスターが最後まで終わらなかったため、残りのポスター解説にあてられた。

2日目は最初に挨拶があり、その後4つの講演がなされた。はじめの講演は鈴木毅彦氏による講演で、テフクロクロノロジーを用いた関東平野の地下構造とその形成史に関するも

のであり、東京国際空港D滑走路の建設に伴うボーリングコア中のテフラの対比などが述べられた。2番目の講演は穴倉正展氏の講演による、関東地震の履歴に関する講演で、既往研究や近年の津波堆積物や地震性タービダイトによる研究のレビューを交えながら関東地震の再来間隔や元禄地震の1回前の地震についての議論がなされた。3番目の講演では石山達也氏ほかが講演し、これまで個別の地震を起こすと考えられてきた国府津-松田断層断層が大規模深部構造探査により、プレート境界のメガスラストに収斂する事、関東平野に存在する逆断層の特徴、さらにこれらをまとめて伊豆衝突帯-関東平野の第四紀テクトニクスについて発表がなされた。4番目の講演では水野清秀氏ほかによる講演で、複数のボーリングコアのテフラの対比や花粉分析等の手法を用いて地層対比を行い、関東平野中央部の地質構造モデルを作成していることが紹介された。また、地質構造と綾瀬川断層の関係についても議論がなされた。

午後は、2件の講演がなされた。はじめの講演は高橋雅紀氏による講演で、日本海の拡大以降のプレートテクトニクスによる地質構造発達史についてであった。インバージョンテクトニクスおよびフィリピン海プレートの

沈み込み、伊豆-小笠原弧の本州への衝突によるテクトニックな関東への影響が議論された。2つ目の講演は伊藤谷生氏ほかによる講演で、地震探査を用いた「大都市大震災軽減化特別プロジェクト」、「首都直下地震防災・減災特別プロジェクト」および千葉大学とその他機関の共同研究によって明らかになりつつある房総半島の地質・地殻構造研究について議論が行われた。

今回のシンポジウムは、広範囲な研究分野を横断して関東盆地の形成史について議論が行われ、様々な分野の最新の研究成果を知ることができ、新鮮かつ極めて有意義な時間となった。また、発表に対して極めて活発に質疑応答が行われたことが印象に残った。普段、自分自身は地表数十メートルの地層に注目してシミュレーションをしているので、地下数キロから数十キロメートルの地質構造に関する研究の詳細を知ることができて大変勉強になった。また、このような高精度地質構造データを用いて新しい関東の地殻変動シミュレーションができないかという新しい研究のヒントになった。最後になりましたが、非常に興味深い講演をしてくださった発表者の方々、このような有意義な時間をあたえてくださった企画者の方々に厚く御礼申し上げます。

◆ロレックス賞 (ROLEX AWARDS) 募集のお知らせ

日本ロレックス社より、「ロレックス賞」応募の案内が自然史学会連合事務局経由で来ております。この賞は自然科学の研究者が応募対象に含まれるもので、同社が日本からの受賞者が出ることを願って自然史学会連合と協力して国内における宣伝に努めているものです。

自然史学会連合では、平成19年度より同社から協賛金を頂き、毎年の講演会のポスター・チラシ・要旨集の作成に当てさせて頂いています。

<http://www.soc.nii.ac.jp/ujsnh/symp/rengou/22/index.html>

そのような立場からも是非多くの皆様にご応募頂ければと思います。応募用紙等は英文サイトから入手できます。

・同賞のサイト (日本語)

<http://www.rolex.com/ja/world-of-rolex/philanthropy/awards-for-enterprise>

・同賞のサイト (英語)

<http://www.rolexawards.com/en/index.jsp>

・同社のサイト (日本語)

<http://www.rolex.com/ja>

◆研究集会「ヒトが住みはじめたころの関東地方」

－南関東最古の旧石器時代遺跡を求めて－

本研究は、とうきゅう環境財団より、研究課題「多摩川流域における後期洪積世初頭の人類文化の成立と地形環境について」として2009年度、2010年度の研究助成を受けて進めてまいりました。多摩川は約10万年以前には多摩丘陵から相模野台地にかけて流路があった時代もあり、同じような条件にもとづく地形形成、地形環境があった相模野地域へも研究の対象範囲を広げて、立川ローム層下部にある石器群の諸問題について、実際の遺跡の調査成果を掘り下げながら、考古学、自然科学からの学際的検討することを目的としています。

主催：「多摩川流域における後期洪積世初頭の人類文化の成立と地形環境を考える研究会」

比田井民子 鈴木次郎 上條朝宏 畠中俊明

共催：相模原市教育委員会

後援：公益財団法人とうきゅう環境財団 日本旧石器学会 日本第四紀学会

開催場所：相模原市立博物館大会議室（地階）神奈川県相模原市中央区高根 3-1-15

開催日時：平成23年3月21日（月）祝日 9:00 受付 9:45 開始

第1部 立川ローム下部の遺跡とは

- 1 ヒトが住みはじめたころの相模野台地 鈴木次郎
- 2 相模野最古の遺跡－吉岡遺跡群－ 砂田佳弘
- 3 津久井城跡馬込地区における大形石斧の石器文化 畠中俊明
- 4 武蔵台遺跡をめぐる大形石斧遺跡群 伊藤 健
- 5 武蔵野台地の立川ローム層最下部遺跡群の成立 比田井民子

コメント 諏訪 順

第2部 遺跡をめぐる環境

- 1 相模原と武蔵野台地の立川ローム最下層をめぐる 上條朝宏
- 2 遺跡をめぐる植物環境と気候 佐瀬 隆
- 3 津久井城跡馬込地区の遺跡のOSL年代について 下岡順直

コメント 細野 勝

第3部 関東地方の立川ローム層下部石器群の再編に向けて

- 1 南関東地方の最古の石器群の課題 白石浩之
- 2 最古の石器群の石器製作 小菅将夫
- 3 立川ローム層下部の縦長剥片、石刃について 大塚宣明
- 4 遺跡からみる特性－環状ブロックの構築－ 橋本勝雄

総評 安蒜政雄

閉会 16:40

- 1 入場無料
 - 2 どなたでも参加できますが、会場の都合、先着150名とさせていただきます。
 - 3 資料を必要な方は当日、有償頒布させていただきます。
 - 4 問い合わせ先 事務局 比田井民子 FAX03-5478-0869
- ※相模原市博物館では会の問合せに対応しませんので、連絡は事務局にお願いします。
- 5 会場周辺には食堂やコンビニ等がほとんどありません。
 - 6 発表内容、発表順、発表者等に多少の変更が生じる可能性もあります。

★★★ 第四紀通信に情報をお寄せ下さい ★★★

第四紀通信の原稿は随時受け付けております。

広報幹事：荻谷愛彦 (kariya(at)isc.senshu-u.ac.jp) 宛にメールでお送り下さい。

第四紀通信は奇数月月上旬原稿締め切り、偶数月 1 日刊行予定としていますが、情報の速報性ということから、版下が完成した段階でホームページに掲載するよう努力しています。奇数月 15 日頃にはホームページにアップするようにしていますのでご利用下さい。

日本第四紀学会広報委員会 専修大学文学部環境地理学研究室 荻谷愛彦
〒 214-8580 川崎市多摩区東三田 2-1-1 電話：044-911-1014 FAX：044-900-7814

広報委員：越後智雄・糸田千鶴 編集書記：岩本容子

日本第四紀学会ホームページ <http://wwwsoc.nii.ac.jp/qr/index.html> から第四紀通信バックナンバーの PDF ファイルを閲覧できます。

日本第四紀学会事務局
〒 169-0072 東京都新宿区大久保 2 丁目 4 番地 12 号 新宿ラムダックスビル 10 階
株式会社春恒社 学会事業部内
E-mail：daiyonki(at)shunkosha.com 電話：03-5291-6231 FAX：03-5291-2176